

3 - 3 房総半島付近の地震活動

Seismic Activity near the Boso Peninsula

国立防災科学技術センター
National Research Center for
Disaster Prevention

防災センターは、房総半島の嶺岡（S1）、館山（S2）、岩井（S3）で地震観測を行っている（第2図参照）。今回は嶺岡での観測結果を示し、最近の房総半島付近の地震活動について述べる。

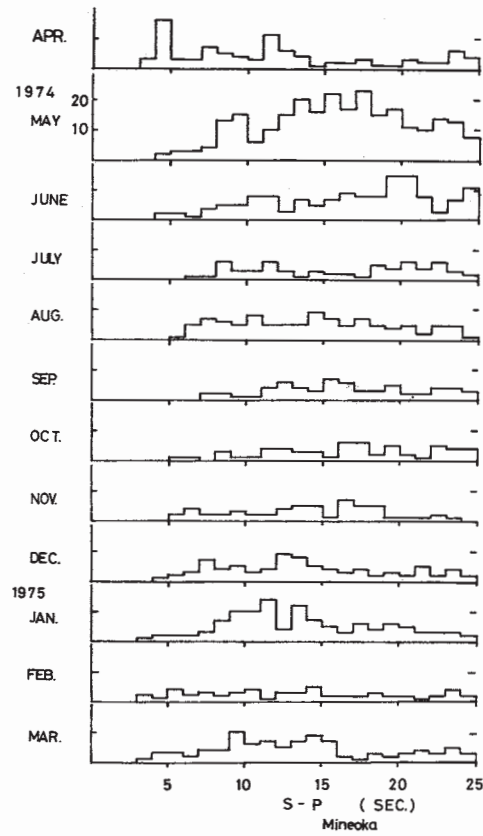
第1図に1974年4月から1975年3月迄の嶺岡（S1）におけるS-P頻度分布を示す。図中1974年5月は伊豆半島に起った地震と房総半島南方沖の群発地震は省いてある。この図が示すように1974年4月を除いてS-Pの短いものは多くはない。この4月のS-Pが4秒付近の地震は、東京大学地震研究所（1974）が示すように、房総半島南岸に起ったものである。

その後S-Pの短い地震は現われなくなっていたが、1974年12月頃より、起り始めている。これらの地震の震源等を調べる為に地震研究所の資料に、嶺岡、岩井、館山のデータを加え、1975年1月の房総半島付近の震源決定を行った。これを第2図に示す。これによれば、S-Pの短い地震は1974年4月のものとは異り、房総半島の下に起っていることがわかる。

東京大学地震研究所（1974）が示すように、房総半島付近の地震について、十分注意を払っていく必要があると考える。

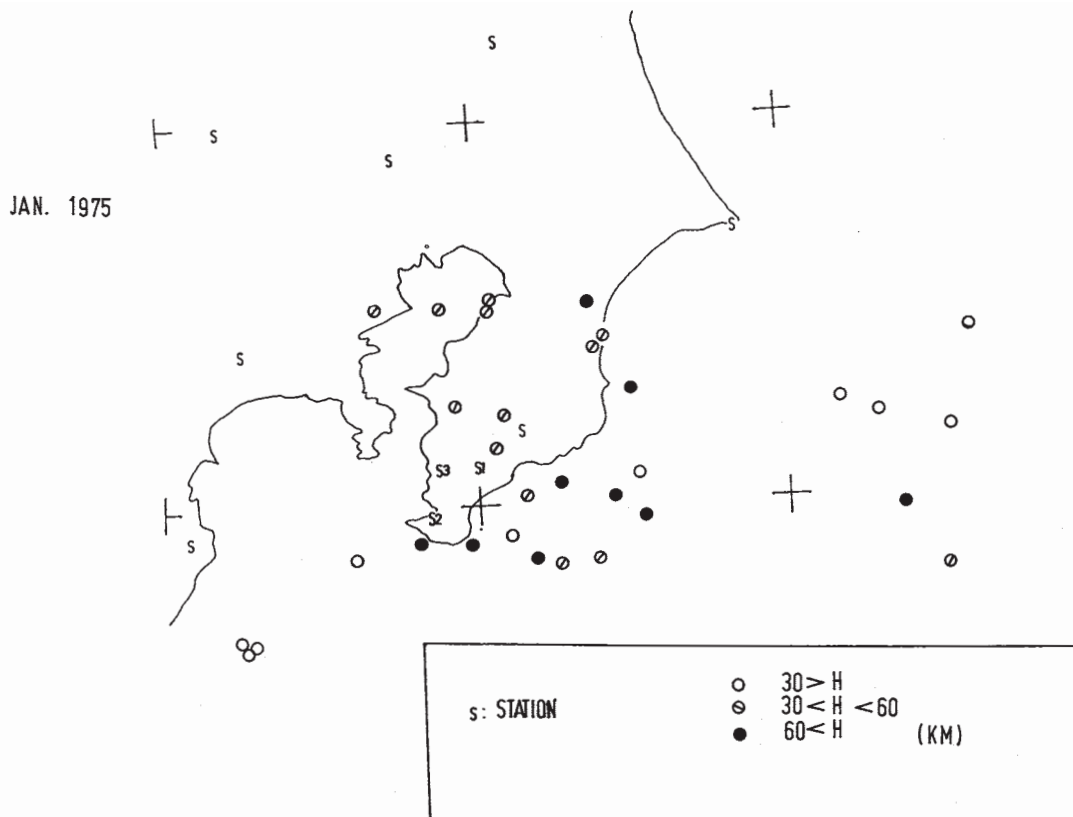
参 考 文 献

東京大学地震研究所（1974）、1974年4月の房総半島南岸および5月南東沖の地震活動 地震予知連絡会会報，12，23 - 26.



第1図 嶺岡 (S1) における S - P 時間の頻度分布

Fig. 1 Frequency distribution of S-P time at the Mineoka station (S1).



第2図 1975年1月の房総半島付近の震源分布

Fig. 2 Epicenters of earthquakes near the Boso peninsula in January, 1975.